

地域情報アプリ

新潟市が提供する「サイチヨのごみ分別アプリ」が便利だ。スマホにインストールして住所や配布された「ごみカレンダー」の番号を登録すると、自分の地域の各種ごみ回収スケジュールが一覧できる。

アラーム機能もあり月1回の特定5品目(乾電池類、蛍光管、水銀体温計、ライター、スプレー缶類)の回収日などを登録しておくこと忘れずにする。「これってどう出すんだっけ」と分類区分に迷うときも検索し調べることができる。

機能は特段に多いわけではないが動作は軽快で使いやすい。公開した2015年3月から約1年間でダウンロード数は1万を超えた。スマホの普及に伴って全国の自治体で住民向けに地域情報を提供するアプリの導入が進んでいる。

軸標座

ごみ分別以外でも子どもの年齢に

期待に機能性なシンプル

合わせて健診や予防接種のお知らせが確認できる子育てアプリや、住所や所在地に合わせた避難情報が得られる防災アプリなどがある。

自分や家族の情報や現在地など所有者ごとのデータを活用できるスマホならではのサービスだろう。

ただ、それらがすべて使いやすいかという残念ながらそうではない。メニューは豊富でも使いたい機能が分かりづらい例や、表示は派手だが動作が重いものもある。

内容を充実させたいという思いは分かるが、それが逆に使いにくくさせているケースもあるようだ。

今後ますます増えてくるだろう地域情報アプリは、実際に住民が使った場合を想定して必要な機能とそうでない機能の「分別」もしっかりとしてもらいたい。

(論説編集委員・吉岡和彦)

連載「家康」 毎朝楽しみ

長岡市 小林 多加志(68)

団体役員

ちがった興味をかきたてられて

井伊氏は彦根藩、国玉彦

本紙連載の「家康」を興

根城」で有名であるが、越

法師直虎」や徳川四天王のひとり「井伊直政」がどの

よりに登場してくるかとの興味である。

いまひとつ、興味深く待

掲げは不可。1カ月過ぎても掲

軍勢の向こうには、海までつづく広大な平野が広がっている。田植えを終えたばかりの水田には、早苗が美しく列をなし、青い空と流れゆく雲が映っている。元康はその景色にしばらく目を奪われ、登壇上人が言った通りだと思つた。岡崎松平家が亡びても、誰かが新しく榮えて領地と領民を守ればよいのである。大事なのは、そのための人材を無駄に死なせないことだつた。

家康

第67回

安部 龍太郎 作

第二章 清洲同盟(十八)

寺を開いて降伏するなら、全員の命を助けるし、所領も元のように宛おこなう。元康にもそれなりの城と所領を与えるであらう。家次は好条件を示して降伏を迫つた。

「おのれ、言わせておけば」

元忠が矢をつがえて家次を射落とそうとした。

「待て」

元康は弓柄をつかんで引き寄せた。

「まさか、降伏なされるおつもりか」

「家次どのの言われることも一理ある。この人数で、あの敵に勝てると思つか」

元康は寺を取り囲む軍勢を見やった。この機会に勝ち馬に乗ろうと、近在の村々からおつ取り刀で駆けつける者たちもいた。

画 公也

